

2022.8.20 故村田一男顧問を偲ぶ会

「八千代市の板碑集成と村田顧問」

八千代市郷土歴史研究会 藤由美



2003.10.4拓本講座にて

はじめに

1999年4月11日 八千代市郷土歴史研究会定期総会後
宗吾霊宝殿(成田市) 前の下総型板碑について説明される村田一男会長（当時）



第1部 八千代市の板碑集成と村田顧問

板碑は鎌倉時代から室町時代に、両親の追善や自身の生前供養（逆修）のために建てられた石の塔婆です。地域の中世を物語る史料について、古文書や遺跡の調査事例が少ない中で、寺の境内や墓所、集落裏の山林・畑から見つかる板碑は、**貴重な金石文史料**です。

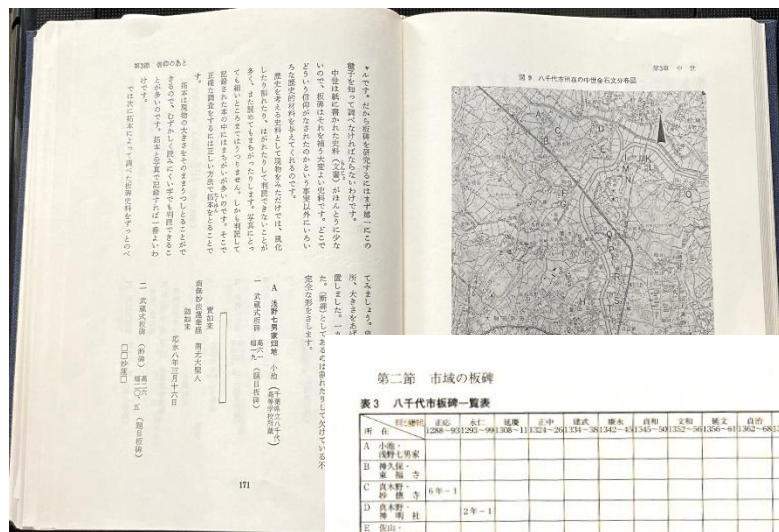
故村田一男顧問は、中世史研究の一つとして、八千代市内の板碑の集成を、ライフワークにされておられました。



2010年2月4日 萱田の君塚長右衛門墓地にて板碑発見！

八千代市立郷土博物館の展示

その後、平成3年（1991）の『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』では**150基**、平成20年（2008）の『八千代市の歴史 通史編 上』では**171基**を集成されています。



『八千代市の歴史』 (1978)

『八千代市の歴史 通史編 上』
(2008)の一覧表

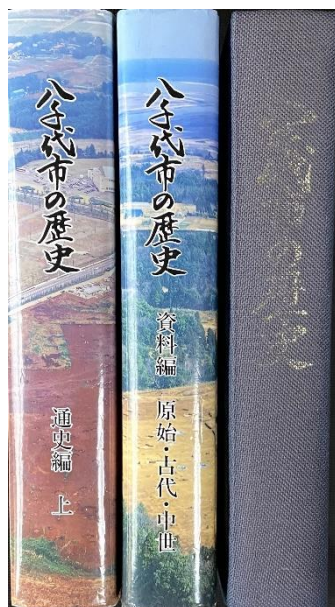
第二節 市域の板碑

表3 八千代市板碑一覽表

表 7-1 寺、院、庵、堂、觀音堂、佛堂、菩薩堂、地藏堂、關帝廟、土地廟、城隍廟、文昌閣、魁星閣、天后宮、關公廟、關帝殿、關帝亭、關帝廟、關帝殿、關帝亭										
序號	名稱	地址	建立年代	建築面積(平方米)	佔地(畝)	僧尼人數	信眾人數	宗教活動	其他事項	備註
A	小南門外 妙善庵	正北街	清康熙年間	1280	60	1260	900	380	11	324
B	神農氏廟 藥王廟	東大街	清乾隆年間	1324	1	1324	1	1	1	8-1 22-1
C	普濟寺 觀音堂	西大街	6年-1							
D	白馬寺 觀音堂	西大街	2年-1							
E	金山寺 觀音堂	平陽門內								
F	平陽門內 觀音堂	平陽門內	2年-1							3-1 D
G	金山寺 觀音堂	平陽門內								
H	受戒堂 觀音堂	平陽門內								
I	高家廟 觀音堂	平陽門內	4年-1							
J	高家廟 觀音堂	平陽門內								
K	曹州府 觀音堂	平陽門內	2年-1							
L	神醫堂 觀音堂	平陽門內	3年-1	3年-2 4年-1						3年- 4年-1
M	神醫堂 觀音堂	平陽門內						7年-1		
N	神醫堂 觀音堂	平陽門內	5年-1							
O	神醫堂 觀音堂	平陽門內								
P	平陽門內 觀音堂	平陽門內	3年-1	下殿型 2年-1				5年-1		
Q	平陽門內 觀音堂	平陽門內						6年-1		
R	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
S	平陽門內 觀音堂	平陽門內	3年-1							
T	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
U	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
V	平陽門內 觀音堂	平陽門內	3年-1					2年-1		
W	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
X	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
Y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
Z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
g	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
h	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
i	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
j	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
k	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
l	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
m	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
n	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
o	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
p	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
q	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
r	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
s	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
t	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
u	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
v	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
w	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
x	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
g	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
h	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
i	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
j	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
k	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
l	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
m	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
n	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
o	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
p	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
q	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
r	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
s	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
t	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
u	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
v	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
w	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
x	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
g	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
h	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
i	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
j	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
k	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
l	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
m	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
n	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
o	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
p	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
q	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
r	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
s	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
t	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
u	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
v	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
w	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
x	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
g	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
h	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
i	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
j	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
k	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
l	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
m	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
n	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
o	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
p	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
q	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
r	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
s	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
t	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
u	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
v	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
w	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
x	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
g	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
h	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
i	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
j	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
k	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
l	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
m	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
n	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
o	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
p	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
q	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
r	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
s	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
t	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
u	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
v	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
w	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
x	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
g	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
h	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
i	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
j	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
k	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
l	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
m	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
n	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
o	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
p	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
q	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
r	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
s	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
t	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
u	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
v	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
w	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
x	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
y	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
z	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
a	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
b	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
c	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
d	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
e	平陽門內 觀音堂	平陽門內								
f	平陽門內 觀音堂	平陽門內								

〔表の見方〕

1. 西暦年代は元元の年も含めてある。
2. たとえば、3年-1というのはその年の年号3年のものが1基あるという書き方である。Dと
3. 下総型と記入してある以外はすべて武蔵型板碑である。
4. 無刻数というのは、板碑の形をしているが何も表面に彫刻していないものの数をさす。
5. 断片の板碑数は記載を省いた。
6. 年号不明数は数字などが削られていても年号がわからないもの（断碑を含む）。



第五章 仏教と信仰

源力	龍正	式正	近江	文明	延徳	明徳	文成	永正	享祿	各分有方 合計	年分 月数	無短数	合計
1411-14	1466-67	1466-67	1467-90	1469-95	1480-92	1492-1501	1501-06	1501-21	1528-32				
2-1 D			3-1 D	1 D 12-1 D	2-1 D			11-1 D		8 D	4 D	11	(120) 25
											1		1
										1	1		2
										1	1		1
											3 (2 D)		(3 D) 4
					7-1 D					(1 D) 2	1 D		(3 D) 3
											5 (3 D)		(3 D) 5
											1 D		(1 D) 1
								2年-1			1	2	3
										1	1		2
										6	8		14
6年-1										2	7	2	11
										1	1		2
											下総型		1
										(下総型1) 7	(下総型1) 17	10	34
								2年-1		1			2
										1	1		2
											1		1
										1			1
2年-1			10年-1 7年-1	7年-1	4年-1 5年-1 6年-2	3年-1 4年-1	2年-1 3年-1 4年-1 5年-1 6年-1 7年-1 8年-1 9年-1 10年-1	7年-1		15	4	5	24
											1		1
6年-1										3	16		19
											1		1
			2年-2		13年-1 13年-1					4	3		7
					11年-1					1			1
											1 D		(1 D) 1
											3 D	2	(3 D) 5
1 D	2	3	1 D	(2 D) 7	(1 D) 2	(1 D) 6	2	(1 D) 7	1	(100) (7年型1)	(150) (7年型2) 84	30	(250) (15年型) 25

ついているものは日蓮宗の題目板碑であることを示す。

☆村田顧問が八千代市郷土歴史研究会の活動の中で、新たに発見された板碑は『史談八千代』3号に速報として報告されています。

・1978年 村上・正覚院の板碑11基と高本・湯浅節家の康永4年銘板碑

⇒『史談八千代』第3号での報告は

『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』
(1991) に収載

資料紹介—八千代市所在の中世金石文集成

会長 村 田 一 男

金属や石に刻まれた文字を「金石文」という。文書が少ない中世にあっては、特に史料的价值が高い。

八千代市内に存在する中世の金石文については「八千代市の歴史」でのべたが、その後、高本と正覚院で新たに板碑を発見したのでそれを補正して紹介する。

調査は昭和53年8月31日現在で、集録した資料は板碑、五輪塔、宝篋印塔それに墨書銘のある木札や銅鼓である。それらの内容は次の通りである。

○板碑

板石塔婆ともいい、石でつくった塔婆。鎌倉時代から室町時代にかけてさかんに建てられた。

建てる目的は両親などのめい福を祈っての追善供養や自分の戒名をしるして将来生前供養（逆修）である。

造立者は在地の土豪たち、つまり農村に住む武士が仏教信仰によって心のよ建てたものである。

関東地方では埼玉県を中心にして「武蔵式板碑」という形式が広く分布して産出する緑泥片岩（青石）を石材とし、形はへん平な石材の頂部を三角形に入れて、上の方には種子（梵字）と蓮台か蓮座を、そして年月日、戒名（施主名などを彫りつけた型式である。

もう一つの型式は千葉県東部から茨城県に分布している「下総式板碑」である。武蔵式とほぼ同様であるが、おもに雲母片岩を用材として、厚手で角型をな形である。石材の産地は筑波地方が多いようである。

八千代市内にはこの二型式の板碑が混在している。なお表面に「南無妙法蓮華経」を刻んだものを「題目板碑」という。



高本・湯浅節家の康永4年銘板碑と断碑2基 2019年4月29日撮影



『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』

・2001年 上高野・金乗院の阿弥陀三尊種字板碑の発見

10 板碑

村田 一男

『史談八千代』第26号で報告
⇒『八千代市の歴史 資料編
原始・古代・中世』に収載



上高野の板碑との出会いは、平成11年4月29日、上高野の駒形神社の句額調査のときであった。句額の所在は、上高野社寺前総代の富田通（とみたとおる）氏からご連絡をいただき、この日も同氏のご案内により調査をスムーズに実施することができたのであった。そして句額調査のあと、富田氏は一行を金乗院に案内して下さり、須弥壇の中から時代がかった厨子状の細長い箱を取り出して見せてくださった。

箱の蓋表には、「三尊種子彫刻石」と墨書され、中には赤い布に覆われた板碑が安置されていた。底板には次のように由緒書が墨書されている。

「明治三十七年二月十六日

此ノ三尊ノ弥陀ハ文明五年足利將軍十代

義直公ノ時代ニ造立シ明治三十六年二月秋 (注、義直は義植のこと)

山新左衛門宅地内ヨリ発掘顕現シタルモノ全三十

七年二月十六日金乗院へ入佛ス 明治三十七年文明五年マテ、

年代ヲ経ル四百三十有余年ナリ」

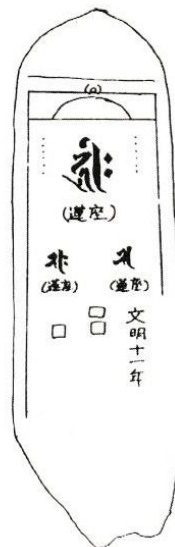
箱の大きさは高さ74cm、幅22cm、深さ13cm、板碑の寸法は高さ60.5cm、幅22cm。

なお、蓋の裏にも上記と同様の出土事実が墨書されている。

板碑の材質は緑泥片岩で、上部は山形をし武蔵式板碑とよばれている形式である。板碑の表面には上部に二横線と天蓋と瑠璃（垂れ飾り）があり、両脇に沿って線刻が見え、中央にキリク（阿弥陀如来）、その右下にサ（観音菩薩）、左下にサク（勢至菩薩）とそれぞれ蓮座の上に梵字が彫られ、厨子の中に阿弥陀三尊の種子が納まっているという構成である。銘文は拓本をとって確かめたところ「文明十一年」と判明した。箱の墨書にある「文明五年」というのは肉眼視による誤読であろう。月日や造立者銘などはわからないが、中央と左部分に文字らしきものが認められる。

厨子状の箱に納められ、金乗院に大事に保管されてきたこの板碑は、『八千代市の歴史』資料編 原始・古代・中世 編にも見られない上高野における新発見である。出土地の秋山新左衛門家はおそらく武士の館の関係地で、第9代將軍足利義尚のとき、文明11年(1479)に武士の供養に建てられたものであろう。

戦国時代の上高野を知る上で重要な歴史資料でかつりっぱな板碑である。



2001年9月23日 金乗院の板碑調査

・2011年 萱田上ノ台・君塚長右衛門家墓の 阿弥陀三尊種字板碑の発見

『史談八千代』第36号で報告⇒未収録

9「君塚長右衛門家墓地の板碑」報告

村田 一男

八千代市萱田小字上ノ台(うへのだい)にある君塚家墓地に所在する板碑で、室町時代の石の塔婆である。高さ 60.5cm、幅 25 cm

石碑表面には阿弥陀三尊の梵字が刻まれた武蔵式板碑である。年号や建てた趣旨はわかりませんが、室町時代にこの地に住んだ真言宗・浄土宗系の武士が先祖か二世安楽を祈って供養したものと思われる。萱田地区は鎌倉・室町時代には萱田郷として栄えた村であるが板碑はこのほかには梵天塚にあった正中2年(1325)(八千代市立郷土博物館所蔵)の板碑のみしか確認されていないのでこの時代の信仰文化を知る貴重な資料である。

なおこの墓地には君塚・加藤・八木ヶ谷諸家三系統の数軒の墓塔がある。墓地の東側の道路は約1間幅の国道があり台地へ向かって上がっている。この国道をはさんだ東側の直上を東葉高速鉄道の高架が走っている。高架下は竹藪で井戸もあり、板碑や供養塔があったという。高架工事より以前にこれらの石造物は国道左側の上ノ台墓地に移されたそうである。

高架下の竹藪のところにはお堂があったのではないかとわれているので『神社明細帳』に小字「牛喰」にあったとされる「阿弥陀堂」が存在した可能性がある。上ノ台墓地にある墓塔以外の板碑などの石造物は存在が想定される「阿弥陀堂」の跡から移設されたものと言われている。墓地には長右衛門家の板碑のほかには数片の板碑があり、墓塔の安定材に使われている。長右衛門家の板碑は平成22年に初見した板碑である。



君塚長右衛門家板碑写真



板碑に掘られた阿弥陀三尊

第2部 板碑とは？

「**板碑**」とは、板状の石材に仏像を表す種子（しゅじ）や被供養者名や年月日を刻んだ石塔で、**鎌倉時代から室町時代の仏教の供養塔**です。

関東では、埼玉県を中心に広く分布する緑泥片岩を板状に加工した「**武蔵型板碑**」と、利根川下流域に分布する雲母片岩製の大型の「**下総型板碑**」があります。

☆ 下総の板碑の種類

・ 形態から

1. 武蔵型板碑
2. 下総型板碑

・ 本尊から

1. 図像板碑
2. 種子板碑
3. 題目板碑



玉蔵院の下総型板碑



下高野の武蔵型板碑

板碑とは？「武蔵型板碑」

関東の板碑の多くは、秩父産緑泥片岩を使用し、頭部が三角で二条線を刻み、薄く長細い形をした「**武蔵型板碑**」と呼ばれる板碑です。

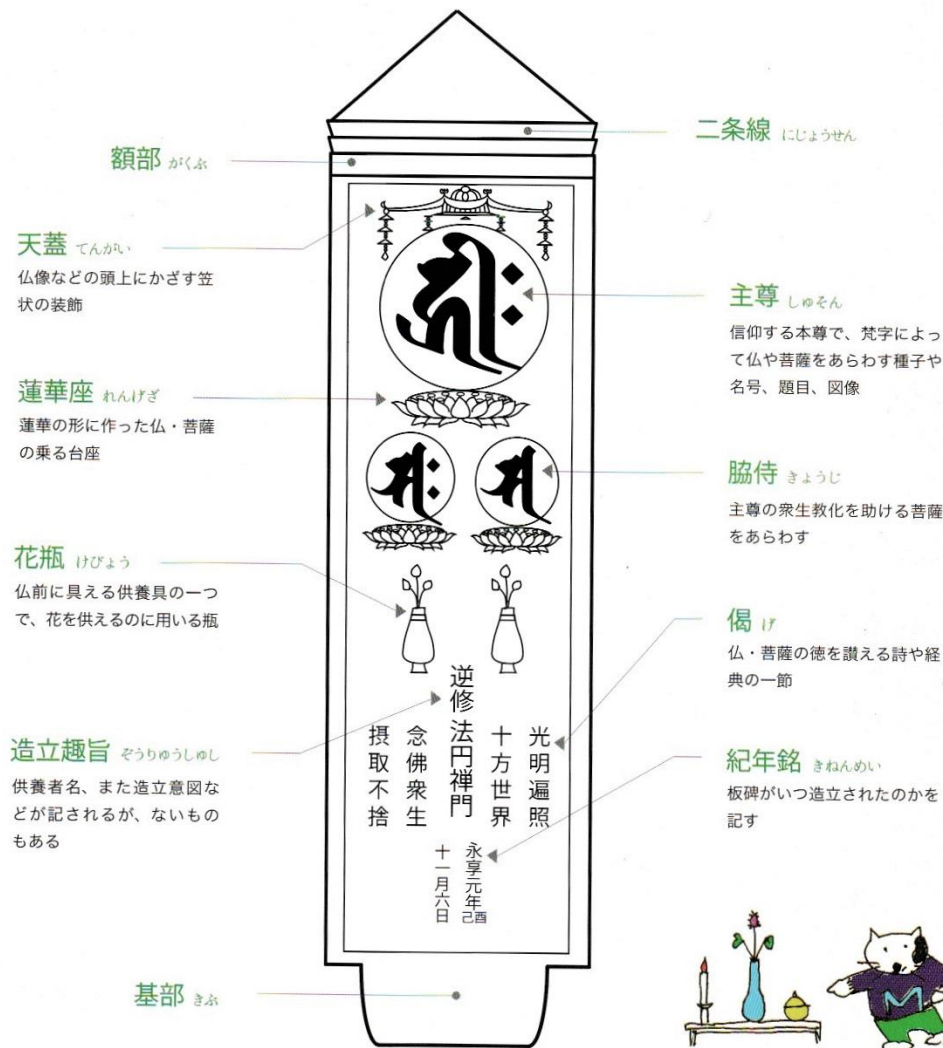
鎌倉時代、荒川中流域（畠山・吉見・比企・川越氏の支配地）の武士団を中心に、建立され、関東全域に広がりました。

埼玉県などでは、鎌倉時代の大型の武蔵型板碑も多数みられますが、時代が下がるにつれて、小型の簡略な板碑が多量に流通し、下総では戦国時代の終わりまで続きます。

なお、埼玉県小川町・長瀬町ではこれらの板碑の採石場遺跡が見つかっています。

板碑の各名称

「江戸川区の板碑」展図録より



武蔵型板碑の特徴

- ▶ 緑色片岩を石材として利用
- ▶ 板状に成形され、上部が三角に尖り二条線を持つ
- ▶ 13世紀前半から17世紀初頭にかけての中世に関東近郊で製作された石造物

板碑とは？ 「武蔵型板碑」



埼玉県立歴史と民俗の博物館
武蔵型板碑の展示



千葉市文化財 真蔵院の武蔵型板碑
永仁2年(1294) 銘。
武石胤盛が母の供養に建立。



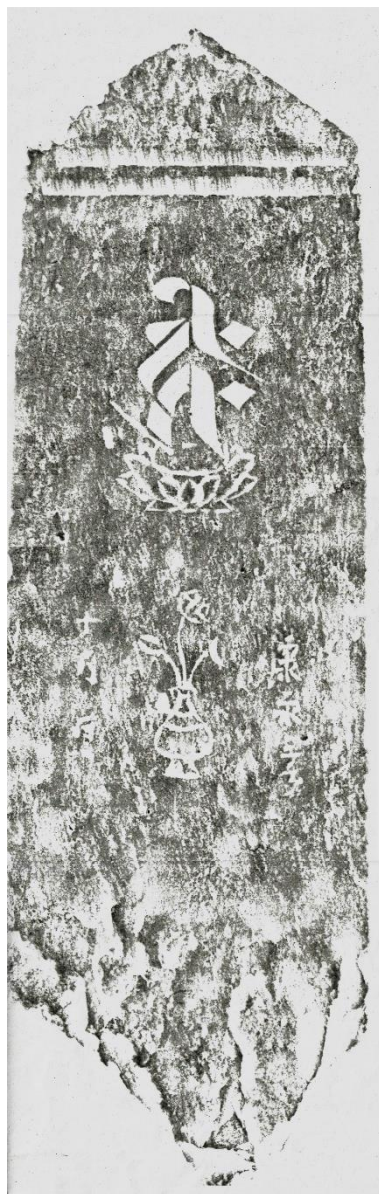
八千代市文化財
米本長福寺の武蔵型板碑
文正2年(1467) 他

板碑とは？ 「武蔵型板碑」

神野の小名木淳家の板碑



康永3年（1345）銘



小名木淳家の板碑を祀る祠



貞和3年（1347）銘

板碑とは？「下総型板碑」

千葉県北部では、筑波石（黒雲母片岩）製で厚く大きめの「下総型板碑」と呼ばれる板碑が香取市や成田市、印西市などに多く分布しています。



宗吾霊宝館（成田市）前の下総型種字板碑
左：明德2年（1391）銘 右：康永元年（1342）銘
2017.6.12撮影



竹林山妙光寺（多古町）の下総型題目板碑群
左：応安4年（1371）銘 右：応永15年（1408）銘
2017.6.20撮影

八千代市内の下総型板碑は3点、そのうち一番大きな下総型板碑が神野の玉蔵院にあります。



神野の玉蔵院の下総型板碑
種字「アーク」
(胎蔵界大日如来)

市内最大の下総型板碑
市指定文化財 雲母片岩製
百名以上の戒名 南北朝期



下総式板碑
高五尺九寸二分
幅四尺〇寸四分
(後刻)
櫻井市郎兵衛
建
是法住法位
(連座) 建武二年乙亥三月 日
吾間相常位

逆水の桜井家墓地の下総型板碑拓影
種字「キリーク」（莊嚴体）
建武2年（1335）銘



板碑の本尊は？ (1) 図像板碑



日本最古の板碑 右は復元品
 嘉禄3年（1227）銘 阿弥陀三尊図像板碑
 熊谷市須賀広（畠山重忠三十三回忌の供養塔か）
 熊谷市Web博物館から

元享4年銘（1324）銘阿弥陀一尊図像板碑
 東京国立博物館所蔵 2018.7.26撮影

板碑の本尊は？ (2) 種字板碑-1

阿弥陀三尊と阿弥陀一尊

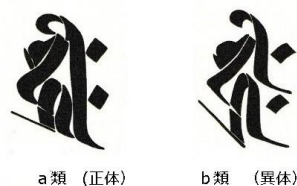
阿弥陀三尊種字＝

阿弥陀如来キリークと脇侍の
観音菩薩サ・勢至菩薩サク



阿弥陀一尊種字＝

阿弥陀如来キリークのみ
ほとんどの板碑の種字は
このキリークのみ



上高野金乗院の阿弥陀三尊種字板碑
文明11年(1479) 銘 天蓋付

神野の土井昭雄家のキリーク一尊
種字板碑 延文5年(1360) 銘

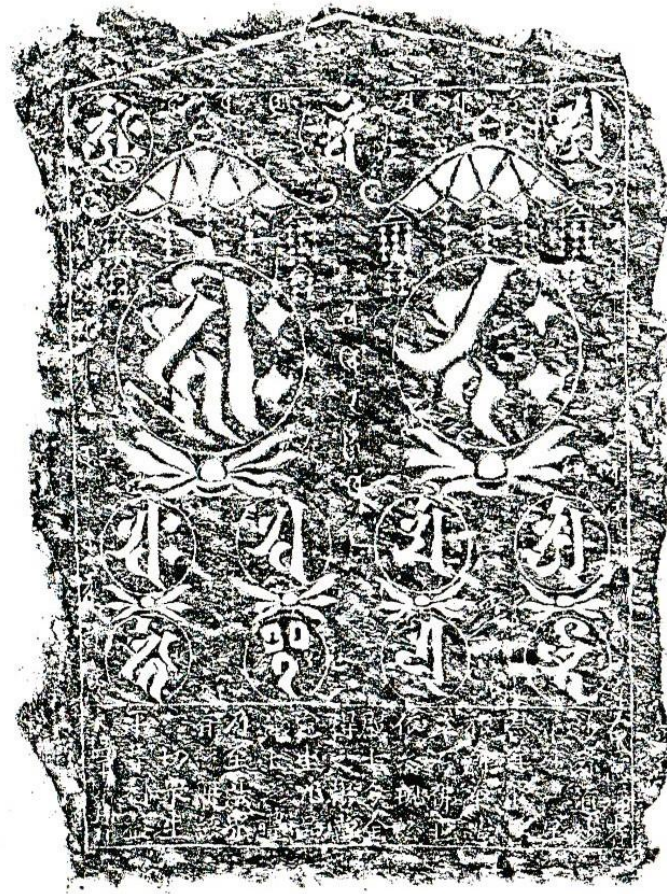


板碑の本尊は？ (2) 種字板碑-2

十三仏種字板碑



2012.12.5撮影



下総型十三仏種字板碑

印西市吉高の羽黒十三仏堂の本尊として祀られている下総型板碑。

紀年銘の確かな十三仏板碑としては最古。

南北朝時代後期 永和四年（1378）の造立。

十三仏とは死者の年忌をつかさどる13の仏を指す。

拓影：『下総板碑』清水長明 1984

板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-1

題目板碑＝「南無妙法蓮華經」の七字題目などが日蓮宗独特の筆法（髭題目）で線刻された板碑

①「一遍首題」の板碑

＝「南無妙法蓮華經」の七字題目を刻む板碑

②題目二尊（四尊）の板碑

＝「南無妙法蓮華經」に「多宝如来」と「釈迦牟尼仏」（四尊は、さらに「浄行菩薩」と「安立行菩薩」）が加わる

③十界曼荼羅の板碑

＝中央に七字題目と二尊、四隅に四天王、左右に愛染明王と不動明王の種子、題目の下に鬼子母神と十羅刹女の文字を刻む板碑



島田台 間見穴遺跡の板碑
「南無妙法蓮華經」銘

板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-2

①「南無妙法蓮華經」の七字題目を刻む板碑



「南無妙法蓮華經」銘板碑
小池地区 文明12年（1480）銘
八千代市立郷土博物館展示



葛飾城跡出土の題目板碑
享禄4年（1528）銘
葛飾区天文と郷土博物館

板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-3

②題目二尊の板碑：「南無妙法蓮華經」に「南無多宝如来」と「南無釈迦牟尼仏」が加わる



右志為一結衆七分全得
南無多宝如来 也
(天)南 無 妙 法 蓮 華 經(蓮)
南無釈迦牟尼仏
応安二年十一月廿七日白敬

多古町妙光寺の下総型板碑
応安4年(1371) 銘
2017.6.20



一塔兩尊式の貞和2年銘題目板碑
(東松山市妙昌寺)

板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-4

③十界曼荼羅の板碑：中央に七字題目と二尊、四隅に四天王、左右に愛染明王と不動明王の種子、題目の下に鬼子母神と十羅刹女の文字を刻む板碑

A7 武蔵式板碑（題目板碑）



A7 武蔵式板碑 高五三 幅一六三 (題目板碑)

大持国天王



大広目天王

大日天王鬼子母神

南無多寶如來南無文殊師利菩 右志□妙□ (上)
北丘尼持也

南無妙法蓮華經法主大聖人

南無釈迦牟尼佛南無□賢苾□□季十月十二日

大日天王十羅刹女

大毘沙門天王



大増長天王

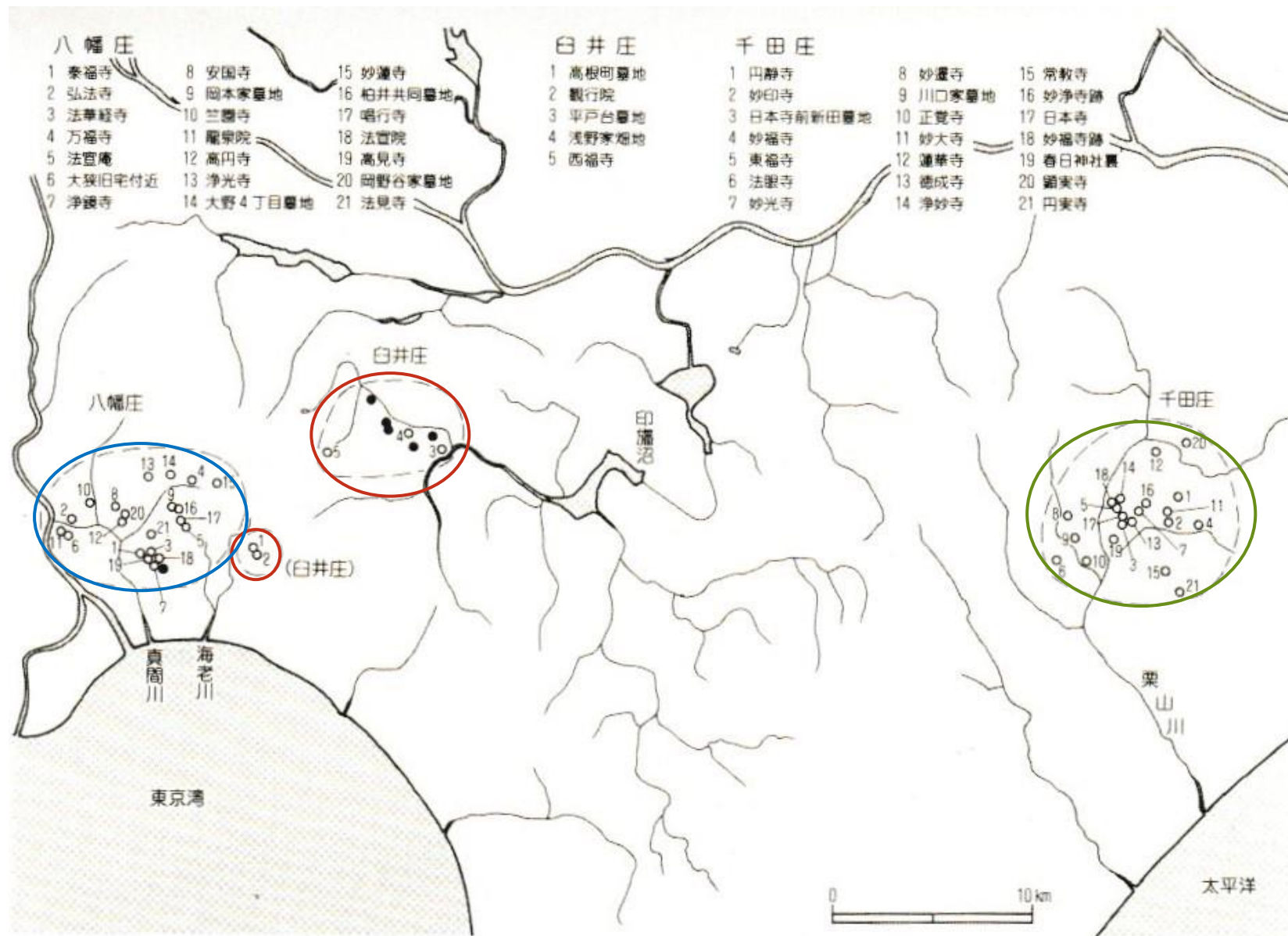
小池の浅野七男家の武蔵型型板碑
年銘不明

大持国天王	妙法	妙許位
大廣目天王	妙法	妙許位
南無无边行步	七世等志靈法界利益也	道園
南無上行步	七世等志靈法界利益也	道園
南無多寶如來	鬼子母神	榮政
(天)南無妙法蓮華經(蓮)	十羅刹女	日銀
南無釈迦牟尼佛	南无天台大師	妙心
南无浄行苾	南无日朝	日銀
南无安立行苾	南无法主大聖人	妙性
南无通	南无日通	妙性
応永十五年十一月十九日	妙榮	妙性
大増長天王	妙祐	妙性
大願影之	妙祐	妙性
大毘沙門天王	妙祐	妙性

多古町妙光寺の下総型板碑
応永15年 (1408) 銘 2017.6.20

千葉県北部の題目板碑の分布

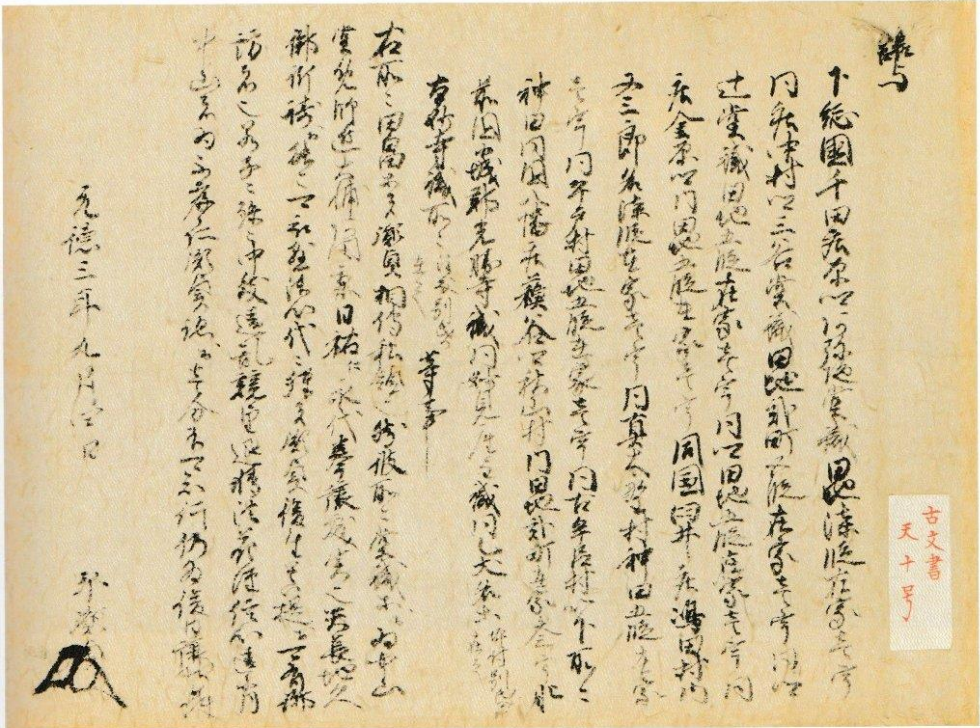
出典：『題目板碑とその周辺』坂田正一 2008



第1図 下総における中山門流下の題目板碑 (●造立趣旨不明題目板碑)

題目板碑の分布の背景

千葉胤貞から養子の日祐（中山門流のトップ）へ、元徳3年（1331）その所領である千田庄・臼井庄・八幡庄内の一部の土地などの譲与が行われ、八千代市内では、嶋田村・真木野村・平戸村がその勢力下に入った



千葉胤貞譲状(中山法華経寺文書) 中山法華経寺蔵 元徳3年(1331)
千葉胤貞が中山法華経寺第3代貫首日祐に寺領を譲与したもの。東国の多くの所領とともに、「肥前国小城郡光勝寺職・同妙見座主職」として光勝寺の名がはじめてみえる。

元徳三年九月四日 千葉胤貞譲状（下総中山法華経寺文書）

平胤貞（花押）

譲与

下総国千田庄原郷阿弥陀堂職田地七段、在家寺宇、
同庄中村郷三谷堂職田地貳町五段、在家寺宇、
同郷辻堂職田地五段、在家寺宇、同郷田地五段、
在家寺宇、同庄金原郷内田地五段、在家寺宇、
同国臼井庄嶋田村内又三郎名七段、在家寺宇、
同真木野村神田五段、在家寺宇、同平戸村田地五段、
在家寺宇、同古牟呂村以下、處々神田、
同国八幡庄會谷郷秋山村内田地貳町、在家寺宇、
肥前国小城郡光勝寺職、同妙見座主職、
同乙犬名坪付別紙在之、本妙寺職、所々注文別紙在之等事
右、所々田畠者、胤貞相伝私領也、然彼所々堂職等お、為中山
堂免、師匠大輔阿闍梨日祐仁、永代奉譲處実也、天長地久
御祈禱お、能々可被懸御心、代々殊者胤貞後生菩提お、可有御
訪者也、若子々孫々中、致違乱競望、退伝法華經信心、違背
中山者、為不孝仁、胤貞跡お壺分不可知行、仍為後日譲状如件、

板碑とは？ 文字や図像のない板碑

種字と蓮座のみで、銘文のない板碑や、図像も全くない無刻の板碑も数多く見つかっています。

これらは、①未製品説(二次加工がされなかった)、②後世の加工説(後から表面を削った)、③粗雑な製品説など、その理由は諸説あります。



神野の土井昭雄家の
No.10 有刻完形板碑（拓本）
キリークと蓮座のみで銘文なし



神野の土井昭雄家の
No.12有刻完形板碑
（表面摩滅？）



神野の土井昭雄家の
無刻の完形板碑
このような粗雑な板碑群は、
印西などでも多く見られる。



第3部 その後の「新発見」-1

2020年2月、八千代市郷土歴史研究会の神野の総合研究の調査で、村田顧問が土井昭雄家所蔵の板碑群を発見。同6月に、村田顧問の指導で八千代市郷土歴史研究会で調査したところ、板碑およびその破片の数は121点。うち有刻の碑は31基ありました。

『八千代市の歴史 通史編』の一覧表の171基の報告以降の大発見となり、『史談八千代』第45・46号で報告しました。

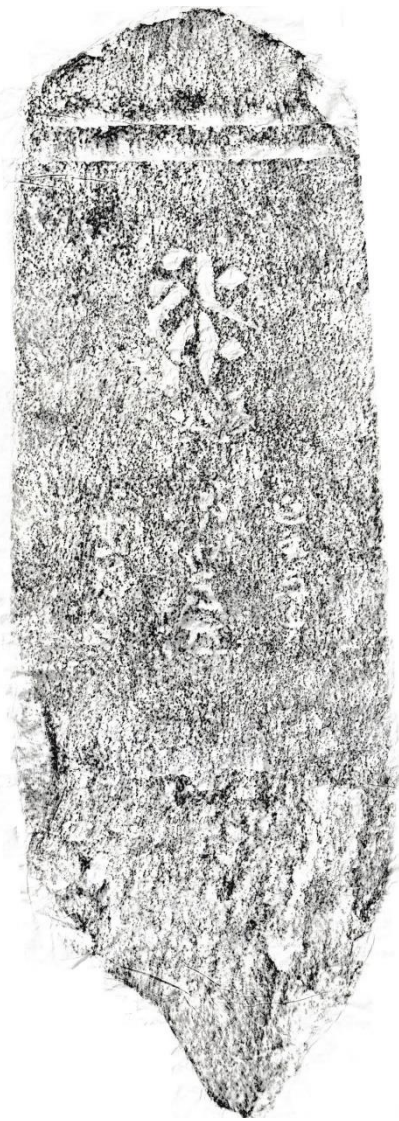


土井昭雄家所蔵の板碑群

No. 1～12 有刻 完形 板碑 (12点)
No.13～31 有刻 上部 断碑 (19点)
No.32～43 無刻上部断碑 (12点)
No.44～54 無刻完形板碑 (11点)
No.55～86 無刻下部断碑 (32点)
No.87～121 無刻断片 (35点)
総計 板碑121点 & 五輪塔空風部1点



新発見の紀年銘のある板碑-1



No.1 (1358)
「延文三年／十一月 日」銘
二条線・キリーク・蓮座・花瓶



No.2 (1357)
「延文二年／十月 日」銘
二条線・キリーク・蓮座・花瓶

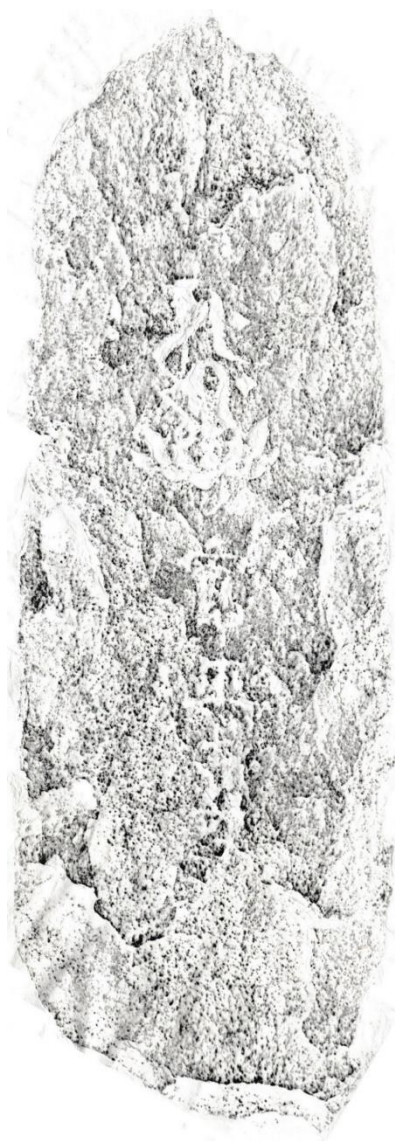


No.3 (1360)
「延文五年／十一月日」銘
二条線・キリーク・蓮座



No.4 (1461)
「長禄五年／ 月 日」銘
キリーク・蓮座

新発見の紀年銘のある板碑-2



No.5 (1466)
「寛正六年」銘
キリク・蓮座



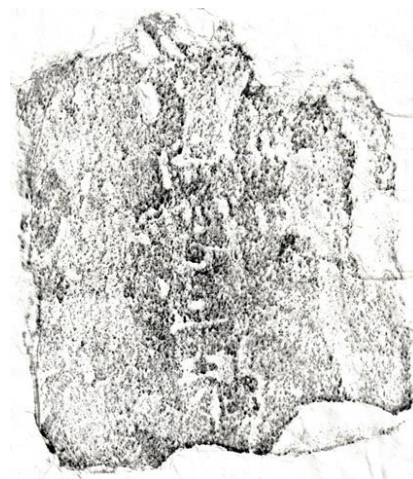
No.6 (1477)
「文明九年」銘
キリク・蓮座



No.8 (1478)
「文明十年」銘
キリク・蓮座・花瓶



No.9 (1467)
「文正二年」銘
蓮座



No.13 断碑 (1467)
「文正二年」銘

銘文のない板碑 & 無刻の板碑



No.7 キリーク



No.10 キリーク 蓮座



No.28 キリークの痕跡



No.50～51 無刻 完形板碑

- ①未製品説(二次加工がされなかった)
- ②後世の加工説(後から表面を削った)
- ③粗雑な製品説など、
その理由は諸説あります。

これまで報告されていた神野の武蔵型板碑

八千代市内の板碑171基のうち、6基が下総型、他169基は全て武蔵型板碑です。

そのうち**神野では**、小名木淳家の康永三年銘など14基、土井與助家墓地の延文銘など11基、福田広家の2基の、**計27基の武蔵型板碑が報告**されていました。

27基中、紀年銘のある板碑（9基）

康永3年（1345）・貞和3年（1347）2基

貞和4年（1348）・文和5年（1356）・延文年間（1356～61）

応永2年（1395）・応永3年（1396）・寛正6年（1465）

新発見の神野の武蔵型板碑

土井昭雄家の板碑総数は121点、うち無刻で上下不明の断片35点を除くと、**基数は86基以内と推定**されます。

このうち紀年銘のある板碑(9基)

延文2年（1357）・延文3年（1358）・延文5年（1360）・長祿5年（1461）

寛正6年（1465）・文正2年（1467）2基・文明9年（1477）・文明10年（1478）

神野の新発見板碑の紀年銘と八千代市の板碑の年代グラフ

神野の2020年発見の板碑の紀年銘

No.	年銘	西暦 年	No.	年銘	西暦 年
No. 1	延文三年	1358	No. 2	延文二年	1357
No. 3	延文五年	1360	No. 4	長禄五年	1461
No. 5	寛正六年	1466	No. 6	文明九年	1477
No. 8	文明十年	1478	No. 9・13	文正二年	1467

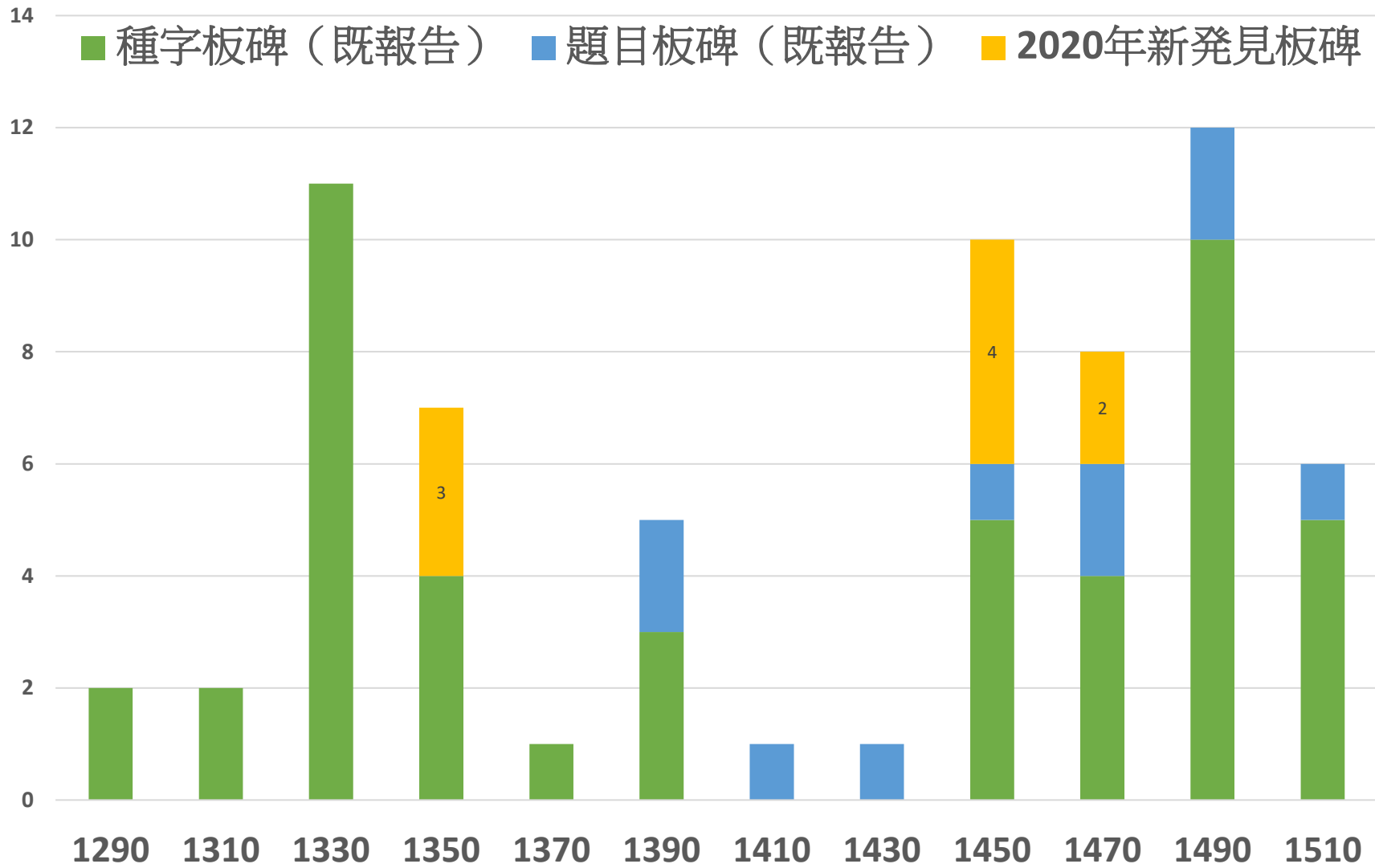
神野の新発見板碑群で在銘は11基、うち年銘のわかる9基は上の表の通りで、14世紀中葉の延文が3基、15世紀中葉長禄～文正が4基、同後葉の文明が2基でした。

八千代市内既報告の板碑171基（下総型3基含む）のうち、年号のわかる57基に、今回の調査した9基を加えて年代別（20年毎）のグラフを図にしてみました。

千葉県内の武蔵型板碑の紀年銘の消長については、初現が1250年代、第1ピークが14世紀中葉、第2ピークが15世紀後葉、終焉は1590年代と報告されています。

今回の調査事例もその二つのピークに一致し、既報告事例57基に加えることにより、全体の動向がより千葉県内の動向に近いものとなりました。

八千代市内板碑年代別グラフ



南北朝1337～1392千葉氏宗家の内紛

紀年銘の年代

享徳の乱1455～1483

第3部 その後の「新発見」-2

八千代市内初の「十三仏板碑」の発見

昨秋の「ふるさとの歴史展」での板碑の特別展示をがきっかけになって、神野の三橋家が所蔵する武蔵型板碑の断碑が新たに見つかりました。

碑面に十三仏の種字を彫り込んだ「十三仏板碑」で、八千代市内では初めての貴重な板碑です。神野の板碑は1基増えて150基になりました。

造立時期は、十三仏の配列や蓮座の形状から天文年間（1532～55）と推定されます。



三橋家十三仏板碑の復元案



八千代市内での板碑の分布と数

『八千代市の歴史 通史編』2008年の数に、新発見分を上乗せ



これまで神野では、八千代市の中でも米本に次いで多い27点の武蔵型板碑と、市の文化財に指定されている下総型板碑1点がありましたが、2020年の調査で武蔵型板碑121点と2022年の調査でさらに「十三仏」種子武蔵型板碑が新たに発見されました。

地区・所在地別板碑数			内訳		
			題目板碑	無刻板碑	下総型
神野	既報告	28			1
	新発見	122		90	
	計	150			
米本逆水		36		10	2
米本長福寺		24		5	
小池		23	12	11	
村上正覚院		19			
島田・島田台		10	6	2	
下高野		7			
佐山		4	3		
平戸台・平戸		4	2		
吉橋高本		4			
真木野		3			
萱田		2			
神久保		1			
桑納		1	1		
保品		1			
米本城址		1			
村上中郷		1			
村上辺田前		1			
上高野		1			

板碑が神野で多く見つかった理由と地理的・歴史的な背景

神野は、印旛沼へ西から入る神崎川、南から入る新川（平戸川）のT字の水路に突き出した半島状の下総台地の先端で、**臼井庄の最北西**に位置します。

中世は臼井氏－千葉氏－原氏に属し、信仰は真言密教系です。

これまで見つかった板碑数の地理的な分布を地図上に重ねると、**板碑が多量に出土しているのは、神野から左回りに新川を遡る逆水～米本～村上の東岸ライン**であり、八千代市内板碑の8割がこのラインに集中しています。



新川西岸と神崎川南岸に囲まれた八千代市北西部は神保郷で、題目板碑の存在が物語るように中山法華経寺の領地です。

一方、新川の東岸は、臼井氏・千葉氏、後に原氏が支配する臼井庄西端のフロントラインであり、太田道灌や上杉謙信の臼井城攻めの際の新川を挟む米本城攻防戦の伝承が残っているように、原氏の支配する臼井城の軍事的最前線でした。

神野はその最前線の中でも、**平戸口を守る水運上の重要拠点**に位置し、当然、**軍事的な需要も多かった地域であった**と推測されます。

第3部 村田顧問から私たちに託された課題-1

近年の板碑研究は、読みとられた銘文と梵字だけではなく、銘文の字体、梵字や蓮華座、花瓶などの荘厳具の形態なども分析対象として、編年や地域的な分布の把握が試みられています。

八千代市内のすべての板碑について、村田先生が遺された拓本資料などを探し、現地再調査も含め、詳細な画像データを付した記録集を編纂・刊行していくことが、今求められています。

具体的には

1. 『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』に記載された板碑資料150点について、1点ごとの写真と拓本のデータの集成
2. 『八千代市の歴史 通史編 上』の一覧表に追加された21点の拓本・写真・翻刻など詳細データの集成
3. 『八千代市の歴史 通史編 上』刊行後の新発見の板碑の調査と記録



2020.6.27神野の土井家の新発見板碑の拓本採り

蓮座のかたち-1 神野の新発見板碑の事例



No.1



No.2



No.3



No.4



No.5



No.6



No.10



弧線状蓮座

蓮座のかたち-2 蝶型蓮座板碑板碑の事例

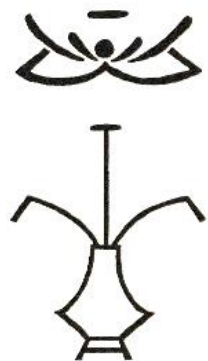


図5 蝶型蓮座板碑模式図
『川崎市史』1993より

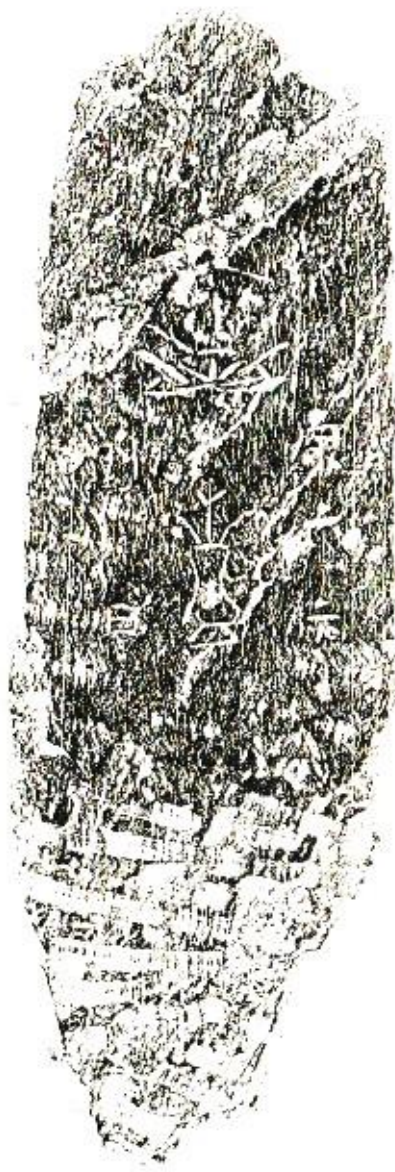


図4 正覚院館跡出土蝶型蓮座板碑

正覚院館跡の康応二年（1390）銘板碑は、簡略化された蓮座や花瓶が特徴の「蝶型蓮座板碑」に分類されます。この板碑は多摩川下流域で多く見つかっていて、採石から加工消費までの地域が特定できる板碑とされています。（『八千代市の歴史 通史編』P338）

このような特徴を判断するためには、拓影または写真を伴った資料の公開が不可欠です。

八千代市内の板碑171点で拓影・写真が図示されているのは数点に留まります。

今後は、全資料の拓影・写真の公開を進め、地域分布・流通・編年など研究に資することが求められていくと思います。

第3部 村田顧問から私たちに託された課題-2

1.「板碑」についてよく知り、知らせよう。

中世の貴重な史料である「板碑」のことを、展示や講演会などで市民に知ってもらい、さらに市内の旧村の畑や墓地での身近な「発見」につなげていきたい。

2.板碑調査のノウハウ（拓本・翻刻など）を学ぼう。

板碑調査の基本は、きれいな拓本を採り、銘文を読み取ることから。

3.調査結果（写真・拓本も）を公開しよう。

調査報告書は、銘文だけでなく、
図像の細部の画像データが肝心です。

他の地域との比較検討のためにも、
公開していきたいと思います。

2003.10.4

拓本講座で墨の作り方を実演される村田先生



おわりに

村田先生は、2021年5月11日、「藤原時平を祭神としている高岡の天神様」を探索に行かれ、佐倉市高岡で未調査の板碑群を発見されました。



2021.5.11 畠山隆氏撮影



畠山隆「村田先生の思い出」
『村田一男先生追悼文集 思い出を語る』から

（前略）山裾の雑木林の中に屋根付きの小祠を見付けました。それはお目当ての天神社ではなく小さな八幡社でしたが、祠の中を覗かれた先生が「畠山さん、中に板碑が沢山あるぞ」との大きな声でした。

それから先生が取り出した断碑の数々。完形は文保元年と読める一枚だけでしたが、中世の武蔵型板碑群に違いありません。

取り出した板碑を祠の前に並べて写真を撮り、すぐに佐倉市文化課に問い合わせたところ、どうやら未調査の板碑であることも分かりました。

（中略）先生と板碑は不思議な糸でつながっているような気がしました。

現地調査の大切さを説かれ、最後に「板碑の新発見」という置き土産を遺された村田一男顧問は、2021年8月6日永遠の眠りにつかれました。